

## 名詞句の前に位置する場合のタイ語限定表現 *tɛɛ* の 意味的特徴に関する考察-日本語との対照を目指して-

モンコンチャイ アッカラチャイ

東京外国語大学大学院総合国際学研究所大学院生

akka\_m@hotmail.com

### 1. 本稿の目的

ある要素が唯一のものであることを示し、同類のほかのものを排除するという「限定」の意味を表す場合、日本語では「だけ」「しか」「ばかり」などのとりたて助詞を用いて表す。それに対して、タイ語では、このような意味を表す時には *tɛɛ*<sup>1</sup>などの語を用いて表現する。

日本語では「だけ」「しか」「ばかり」などのとりたて助詞は、名詞句や動詞句などの後につき、その要素を取り立てる。一方、タイ語の場合、その修飾関係は、被修飾語である主要部に修飾語が後置される NA 型である。そのため、タイ語の限定表現の統語的な位置は名詞句や動詞句の前に置くものとなり、後続の要素を取り立てて限定することになる。次の(1)は *tɛɛ* を用いた例である。

(1) *mây mii weelaa læay àan tɛɛ bòtthii nùuŋ*

[否定] ある 時間 だから 読む [限定] レッスン 1

(時間がなかったので、第1章だけ読んだ。)

(1)では、下線部分の「第1章 (*bòtthii nùuŋ*)」が *tɛɛ* によってとりたてられることにより、同類の他のもの、つまり「第2章」「第3章」などが排除され、「第1章」のみが「読んだ」唯一の章であるという限定の意味が表される。

本稿では、上記のようなタイ語における限定の意味を表す *tɛɛ* という表現について、それが名詞句の前に位置する場合について、その表現の統語的特徴及び意味的特徴を明らかにすることを目的とする<sup>2</sup>。

### 2. タイ語の限定表現に関する先行研究の検討及びその問題点

三上(2002)は、タイ語の限定表現 *khɛɛ* と *tɛɛ* に関する違いについては、*tɛɛ* は「あるのはそれ1種類(あるいは1つのまとまり)だけで、それ以外にない」という意味を表すとしている。また、*tɛɛ* は単に数量を表す語 \**mii tɛɛ sǎam khon* (3人だけ) だけと合わせては使えないが、その数量を1つにまとめる語 *mii tɛɛ sǎam khon níi* (この3人だけ) があれば、使えるようになる。しかし、例文を見ていくと、*tɛɛ* はそのような意味をもつだけでなく、「対象となる事柄が基準より多い」ということを表すこともあると考えられる。

また、Surarungsikul (2008) は、タイ語に翻訳された日本の文学作品10冊とタイの雑誌に掲載されたタイ語の小説15作品から用例を合わせて382例収集し、「だけ」「しか」「ばかり」という日本語の限定を表すとりたて助詞と、*khêe*、*phiaŋ*、*tɛɛ* というタイ語の限定表現の意味・用法との対照研究を行っている。*tɛɛ* については、「限られた物事・出来事・限られたものばかり～」という意味を表すとされている。しかし、ここでは分析対象とする語 (*tɛɛ* (ばかり)) について、その語 (*tɛɛ* (ばかり)) を用いて意味を記述しているため、記述が循環してしまっている。そのため、*tɛɛ* については分析対象とする語「*tɛɛ*」を使用しないでその意味を記述する必要があると考えられる。

### 3. 名詞句の前に位置する場合の *tɛɛ* の意味的特徴

#### 3.1 対象となる事柄が唯一のものであり、同類の他のものを排除することを表す

三上 (2002) と Surarungsikul (2008) では、*tɛɛ* は対象となる事柄が唯一のものであり、同類の他のものを排除するという意味を表していると指摘されている。まず、以下の (2) と (3) は限定表現が用いられていない文と用いられている文である。

(2) *maanii kin khâaw-tôm*

[人名] 食べる お粥

(マーニーはお粥を食べた。)

(3) *maanii kin tɛɛ khâaw-tôm*

[人名] 食べる [限定] お粥

(マーニーはお粥だけを食べた。)

(2) では、マーニーが *khâaw-tôm* (お粥) という食べ物を食べるということが述べられている。それに対し、(3) では *khâaw-tôm* (お粥) が限定表現 *tɛɛ* でとりたてられることによって、それがマーニーの唯一の *kin* (食べた) 対象であることが示される。同時に *khâaw-tôm* (お粥) と同類の他の要素、つまりごはんやヌードルやパンなどといった主食として食べられる他の食べ物は食べないことが暗示されている。この場合、*tɛɛ* は他の限定表現と同様に「限定」の意味を表す。しかし、*tɛɛ* が用いられる文脈を詳細に検討すると、他の限定表現と異なる意味を表す場合もあることがわかる。

#### 3.2 対象となる事柄が基準より多いことを表す

*tɛɛ* は、他の限定表現と異なり、対象となる事柄が重なっていることや、それが基準より多く何度も繰り返されることを表すものとも考えられる。以下の (4) はその例を示す。

(4) *maanii wan-wan lén tɛɛ keem tham-hây sǎay-taa sǎa*

[人名] 毎日 遊ぶ [限定] ゲーム させる 視力 壊れる

(マーニーは毎日ゲームばかりやっているので、視力が低下している。)

(4) では、マーニーは話し手のとらえる基準より多く、繰り返しゲームをしているということが述べられている。この場合、話し手のとらえる基準は「視力が低下しない程度」ということが考えられる。その基準を上回ったため、マーニーは視力が低下しているわけである。

また、*tèe* は他の限定表現と異なり、同類の他のものを完全に排除することを表すだけでなく、排除しない場合にも使用される。以下は、その例を示す。

- (5) *maanii maa súuw-khǒŋ {khêe /phiaŋ /tèe /chaphǒ} ráan níi mây khəəy*  
 [人名] 来る 買い物 [限定] 店 この [否定] したことがある  
*pay ráan ʔùn læy*  
 行く 店 他の 全然

(マーニーはこの店しか買い物しないので、他の店には一度も行ったことがない。)

- (6) *sànmáak maanii maa súuw-khǒŋ {\*khêe /\*phiaŋ /tèe /\*chaphǒ} ráan níi tèe-kǒ*  
 たいてい [人名] 来る 買い物 [限定] 店 この かし  
*pay súuw ráan ʔùn dūay pen-baəŋ-khráŋ*  
 行く 買う 店 他の も たまに

(マーニーはよくこの店で買い物をしているが、たまに他の店に行くこともある。)

(5) では、マーニーはこの店に限って来ており、他の店には全然行かないことを述べている。この場合、他の店を完全に排除したということを表している。そのため、タイ語の限定表現のいずれをも用いることができる。一方、(6) では、マーニーがその店で買い物する回数が多いということが表されているが、この場合、その店以外のところにも行く可能性が完全には否定されない。それよりも「マーニーがこの店で買い物する」という事柄が、話し手の想定している基準となる回数よりも多く、何度も繰り返されていることを表すのが、この文の主眼である。この場合は、他のものを完全に排除する他の限定表現は使えない。

また、次の(7)では、繰り返されているということではなく、対象となる事柄の数が多いということが表されている。

- (7) *nay hôŋ maanii mii tèe naŋsǔuw phaasǎa-yǐpùn tem-pay-mòt*  
 中 部屋 [人名] ある [限定] 本 日本語 いっぱい  
*tèe táy tǒthamŋaan tua nán mii naŋsǔuw phaasǎa-ciin yùu dūay*  
 しかし 下 机 [類別詞] その ある 本 中国語 ある も

(マーニーの部屋の中には日本語の本ばかりだが、その机には中国語の本もある。)

(7) では、マーニーの部屋の中に、話し手の持っている「日本語の本が一般の人の部屋にある本の数」という基準より多く日本語の本があることを表している。しかし、後続の文脈からわかるように、マーニーの部屋にある本は全て日本語の本というわけではなく、中国語の本なども存在するということである。つまり、日本語の本以外の本を完全に排除するというわけではない。

#### 4. まとめ

名詞句の前に置く場合の限定表現 *tɛɛ* は、その意味的特徴として「対象となる事柄が唯一のものであり、同類の他のものを排除することを表す」という他の限定表現と共通の「限定」の意味を持っている。この場合、日本語ではとりたて助詞「だけ」「しか」等を用いて表現することが一般的である。しかし、さらに詳細に述べる際に、*tɛɛ* は対象となる事柄がある基準より多いことを表すこともある。また、*tɛɛ* は同類の他のものを完全に排除することを表すだけでなく、それを排除しないことも表すことができる。

#### 注

- 1) 本稿におけるタイ語の発音表記は、IPA (国際音声記号、International Phonetic Alphabet) 表記に基づく。
- 2) タイ語の限定表現には、*tɛɛ* の他に *khɛɛ*、*phian*、*chaphɔ̄*<sup>2)</sup> などがある。これらについて稿を改めて分析を行うこととしたい。

#### 参考文献

- 三上直光 (2002) 『タイ語の基礎』 白水社
- 三谷恭之 (1989) 「タイ語」『言語学大辞典』第2巻 三省堂 pp. 529-545
- 峰岸真琴 (2012) 「アジアの視座からの言語学を目指して：タイ語研究を例に」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』9 東京外国語大学 pp. 203-214
- 峰岸真琴、タッサニー・メーターピスィット (2003) 「タイ語の『行く・来る』」東南アジア諸言語研究会編『東南アジア大陸諸言語の「行く・来る」』慶應義塾大学言語文化研究所 pp. 211-248
- モンコンチャイ・アッカラチャイ (2011) 「タイ語における限定表現『*khɛɛ*』の意味・用法に関する考察—日本語との対照を目指して—」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』6 東京外国語大学 pp. 279-287
- (2012) 「タイ語における限定表現『*tɛɛ*』の意味・用法に関する考察」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』8 東京外国語大学 pp. 223-232
- Iwasaki, Shoichi and Ingkaphirom, Preeya 2005. A Reference Grammar of Thai. Cambridge University Press.
- Prasithratsint, Amara. (2010). ชนิดของคำในภาษาไทย: การวิเคราะห์ทางวากยสัมพันธ์. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์เอเอสพี (Parts of Speech in Thai. Bangkok: A.S.P. Publishers.)
- Surarungsikul, Panika. (2008). การศึกษาความหมายและวิธีการใช้คำกำหนดขอบเขต shika, dake, bakari: เปรียบเทียบภาษาญี่ปุ่นในภาษาไทย. ใน วารสารเจแปนฟาวน์เดชั่น กรุงเทพฯ. ฉบับที่ 5 หน้า 17-26 กรุงเทพฯ: เจแปนฟาวน์เดชั่น กรุงเทพฯ (「限定を表す日本語のとりたて詞とタイ語の限定表現の対照研究」『国際交流基金バンコク日本文化センター 日本語教育紀要』5 pp. 17-26)